

花山の風害

今回京阪地方を襲つた颱風は既にその前日(20日)23時頃から花山天文臺に異狀を來し、大ドームの鳴動、風力の増大等により臺員一同睡眠し得ず、徹夜で警戒に當つたが、風は翌朝に至つて益々強く、21日8時半前後その極点に達し、風力約60米、氣壓723糎(海面に補正したる値)となつた。此の強風のため大ドームの鐵板は9割まで剝取られ、46糎及び25糎の兩反射鏡室は倒潰し、太陽館の大小兩シロスタットの箱は破壊され宿舍は屋根と壁の半を吹飛され全く使用し得ざるに至つた。又無線用アンテナポールの一つは倒潰した。その他處々のガラス窓の破壊、棚の破損、構内樹木の折れ倒るゝもの無數であつた。然し臺員一同傷害を受けず、勇敢に難局と戰つたのみならず、その後今日疲勞をも征服して後かたづけに熱中してゐる。一般にコンクリートの建物及び子午線室は無事で精密時計をはじめ、大小の望遠鏡諸機械(反射鏡を除く)にいささかの故障もなかつたのは幸ひであつた。

但し、電燈、電力、電話の諸線悉く切斷され、今尙復舊せず、通信連絡に不便を極め當分の内は觀測研究も殆んど不可能の状態にある。

臺員の家族達にも大した傷害はなく多くはただ家屋の建具やガラス等を破壊されたに過ぎなかつた。

此の災害に際し既に今日迄に遠近の各位から親切な御見舞を頂いたことは感謝にたえない。(花山急報第99號より)

1934年9月22日